

別表 (学部の学科、研究科の専攻等)

学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員	収容数	定員充足率
	(a)	(b)	(b)/(a) × 100
	(人)	(人)	(%)
文学部	760	916	120.5
人文科学科	760	916	120.5
教育学部	220	261	118.6
教育学科	220	261	118.6
法学部	860	1,024	119.1
法学課程	860	1,024	119.1
経済学部*	760	844	111.1
経済学科	300	341	113.7
経営学科	270	296	109.6
1年次(学科分属前)	190	207	108.9
理学部*	1,200	1,352	112.7
数学科	150	177	118.0
物理学科	105	125	119.0
化学科	225	237	105.3
生物科学科	240	268	111.7
地球科学科	180	200	111.1
1年次(学科分属前)	300	345	115.0
医学部	1,150	1,208	105.0
医学科	590	609	103.2
(うち医師養成に係る分野)	(590)	(609)	(103.2)
保健学科	560	599	107.0
歯学部	360	360	100.0
歯学科	360	360	100.0
(うち歯科医師養成に係る分野)	(360)	(360)	(100.0)
薬学部	320	341	106.6
総合薬学科 17	240	257	107.1
1年次~3年次(学科分属前)	80	84	105.0
工学部*	2,700	3,064	113.5
応用理工系学科	320	341	106.6
情報工エレクトロニクス学科	360	393	109.2
機械知能工学科	240	262	109.2
環境社会工学科	420	450	107.1
材料工学科 16	80	100	125.0
応用化学科 16	140	152	108.6
情報工学科 16	120	135	112.5
電子工学科 16	120	137	114.2
システム工学科 16	120	145	120.8
応用物理学科 16	100	133	133.0
原子工学科 16	80	90	112.5
機械工学科 16	160	194	121.3
土木工学科 16	160	182	113.8
建築都市学科 16	90	100	111.1
環境工学科 16	110	118	107.3
資源開発工学科 16	60	66	110.0
3年次編入学(各学科共通)	20	66	330.0
1年次(学科分属前)(旧)	-	[9]	-
農学部*	860	928	107.9
生物資源科学科	108	114	105.6

学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員	収容数	定員充足率
応用生命科学科	90	92	102.2
生物機能化学科	105	112	106.7
森林科学科	108	122	113.0
畜産科学科	69	73	105.8
農業工学科	90	93	103.3
農業経済学科	75	83	110.7
1年次(学科分属前)	215	239	111.2
獣医学部	240	260	108.3
獣医学科	240	260	108.3
水産学部*	860	926	107.7
水産海洋科学科 17	120	141	117.5
海洋生産システム学科 17	120	153	127.5
海洋生物生産科学科 17	180	196	108.9
海洋生物資源化学科 17	180	195	108.3
水産教員養成課程 17	45	0	0.0
(うち水産教員養成に係る分野)	(45)	(0)	(0.0)
1年次(学科分属前)	215	241	112.1
学士課程 計	10,290	11,484	111.6
〔学科,専攻の廃止後も在籍する学生数 計〕	-	[9]	-
文学研究科	236	275	116.5
思想文化学専攻	36	52	144.4
歴史地域文化学専攻	76	98	128.9
言語文学専攻	76	77	101.3
人間システム科学専攻	48	48	100.0
教育学研究科	90	107	118.9
教育学専攻	90	107	118.9
法学研究科	40	72	180.0
法学政治学専攻	40	72	180.0
経済学研究科	60	55	91.7
現代経済経営専攻	60	55	91.7
経済システム専攻 16(旧)		[2]	
現代経済経営専攻 16(旧)		[9]	
経営情報専攻 16(旧)		[4]	
理学研究科	216	249	115.3
数学専攻 17	46	45	97.8
物理学専攻 17	39	35	89.7
化学専攻 17	48	65	135.4
生物科学専攻 17	45	66	146.7
地球惑星科学専攻 17	38	38	100.0
医学研究科	40	63	157.5
医科学専攻	40	63	157.5
薬学研究科	43	67	155.8
生体分子薬学専攻 17	15	24	160.0
創薬化学専攻 17	15	22	146.7
医療薬学専攻 17	13	21	161.5
工学研究科	680	771	113.4
応用物理学専攻	68	71	104.4
有機プロセス工学専攻	50	47	94.0
生物機能高分子専攻	40	44	110.0
物質化学専攻	34	41	120.6
材料科学専攻	60	61	101.7

学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員	収容数	定員充足率
(a)	(名)	(b)	(b)/(a) × 100 (%)
機械宇宙工学専攻	42	53	126.2
人間機械システムデザイン専攻	40	51	127.5
エネルギー環境システム専攻	40	52	130.0
量子理工学専攻	34	41	120.6
環境フィールド工学専攻	46	46	100.0
北方圏環境政策工学専攻	36	47	130.6
建築都市空間デザイン専攻	36	46	127.8
空間性能システム専攻	44	56	127.3
環境創生工学専攻	56	58	103.6
環境循環システム専攻	54	57	105.6
システム情報工学専攻(旧)		[1]	
電子情報工学専攻(旧)		[1]	
物質工学専攻 16(旧)		[2]	
分子化学専攻 16(旧)		[1]	
量子物理工学専攻 16(旧)		[1]	
量子エネルギー工学専攻 16(旧)		[1]	
機械科学専攻 16(旧)		[5]	
社会基盤工学専攻 16(旧)		[5]	
都市環境工学専攻 16(旧)		[9]	
環境資源工学専攻 16(旧)		[3]	
農学研究科	129	199	154.3
生物資源生産学専攻 17	53	65	122.6
環境資源学専攻 17	37	61	164.9
応用生命科学専攻 17	39	73	187.2
水産科学研究科			
環境生物資源科学専攻 16(旧)		[4]	
生命資源科学専攻 16(旧)		[1]	
地球環境科学研究科			
地圏環境科学専攻 16(旧)		[5]	
生態環境科学専攻 16(旧)		[4]	
物質環境科学専攻 16(旧)		[5]	
大気海洋圏環境科学専攻 16(旧)		[2]	
国際広報メディア研究科	54	71	131.5
国際広報メディア専攻	54	71	131.5
情報科学研究科	354	376	106.2
複合情報学専攻	48	62	129.2
コンピュータサイエンス専攻	48	51	106.3
情報エレクトロニクス専攻	78	76	97.4
生命人間情報科学専攻	66	50	75.8
メディアネットワーク専攻	60	84	140.0
システム情報科学専攻	54	53	98.1
水産科学院	180	200	111.1
海洋生物資源科学専攻	86	86	100.0
海洋応用生命科学専攻	94	114	121.3
環境科学院	322	303	94.1
環境起学専攻	88	64	72.7
地球圏科学専攻	74	65	87.8
生物圏科学専攻	104	102	98.1
環境物質科学専攻	56	72	128.6
理学院	203	207	102.0
数学専攻	46	43	93.5
化学専攻	56	61	108.9
量子理学専攻	24	29	120.8
宇宙理学専攻	18	15	83.3

学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員	収容数	定員充足率
自然史科学専攻	39	39	100.0
生命理学専攻	20	20	100.0
農学院	150	174	116.0
共生基盤学専攻	48	41	85.4
生物資源科学専攻	42	47	111.9
応用生物科学専攻	18	33	183.3
環境資源学専攻	42	53	126.2
生命科学院	135	142	105.2
生命科学専攻	135	142	105.2
修士課程 計	2,932	3,331	113.6
[学科, 専攻の廃止後も在籍する学生数 計]	-	[65]	-
文学研究科	177	277	156.5
思想文化学専攻	27	33	122.2
歴史地域文化学専攻	65	118	181.5
言語文学専攻	49	65	132.7
人間システム科学専攻	36	61	169.4
東洋哲学専攻(旧)	-	[1]	-
東洋史学専攻(旧)	-	[1]	-
英米文学専攻(旧)	-	[1]	-
国文学専攻(旧)	-	[1]	-
言語学専攻(旧)	-	[1]	-
教育学研究科	63	103	163.5
教育学専攻	63	103	163.5
教育制度専攻(旧)	-	[3]	-
教育学専攻(旧)	-	[2]	-
法学研究科	45	68	151.1
法学政治学専攻	45	68	151.1
公法専攻(旧)	-	[1]	-
経済学研究科	56	51	91.1
現代経済経営専攻	30	19	63.3
経済システム専攻 16	9	14	155.6
現代経済経営専攻 16	11	17	154.5
経営情報専攻 16	6	1	16.7
経済学専攻(旧)	-	[1]	-
理学研究科	208	192	92.3
数学専攻 17	44	36	81.8
物理学専攻 17	38	27	71.1
化学専攻 17	46	35	76.1
生物科学専攻 17	44	55	125.0
地球惑星科学専攻 17	36	39	108.3
医学研究科	440	440	100.0
生体機能学専攻	80	23	28.8
病態制御学専攻	120	180	150.0
高次診断治療学専攻	96	122	127.1
癌医学専攻	48	58	120.8
脳科学専攻	56	24	42.9
社会医学専攻	40	33	82.5
内科系専攻(旧)	-	[3]	-
外科系専攻(旧)	-	[7]	-
歯学研究科	168	136	81.0

学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員	収容数	定員充足率
(a)	(名)	(b)	(b)/(a) × 100 (%)
口腔医学専攻	168	136	81.0
薬学研究科	40	49	122.5
生体分子薬学専攻 17	14	14	100.0
創薬化学専攻 17	14	25	178.6
医療薬学専攻 17	12	10	83.3
工学研究科	282	213	75.5
応用物理学専攻	16	6	37.5
有機プロセス工学専攻	12	6	50.0
生物機能高分子専攻	10	9	90.0
物質化学専攻	10	9	90.0
材料科学専攻	14	9	64.3
機械宇宙工学専攻	10	4	40.0
人間機械システムデザイン専攻	10	11	110.0
エネルギー環境システム専攻	10	7	70.0
量子理工学専攻	10	6	60.0
環境フィールド工学専攻	10	3	30.0
北方圏環境政策工学専攻	10	12	120.0
建築都市空間デザイン専攻	10	12	120.0
空間性能システム専攻	10	10	100.0
環境創生工学専攻	14	12	85.7
環境循環システム専攻	14	14	100.0
物質工学専攻 16	14	9	64.3
分子化学専攻 16	16	4	25.0
量子物理工学専攻 16	14	6	42.9
量子エネルギー工学専攻 16	10	3	30.0
機械科学専攻 16	16	9	56.3
社会基盤工学専攻 16	13	12	92.3
都市環境工学専攻 16	16	28	175.0
環境資源工学専攻 16	13	12	92.3
システム情報工学専攻(旧)	-	[11]	-
電子情報工学専攻(旧)	-	[11]	-
農学研究科	131	152	116.0
生物資源生産学専攻 17	52	69	132.7
環境資源学専攻 17	41	43	104.9
応用生命科学専攻 17	38	40	105.3
獣医学研究科	96	66	68.8
獣医学専攻	96	66	68.8
水産科学研究科	40	67	167.5
環境生物資源科学専攻 16	21	45	214.3
生命資源科学専攻 16	19	22	115.8
地球環境科学研究科	56	68	121.4
地圏環境科学専攻 16	13	6	46.2
生態環境科学専攻 16	19	29	152.6
物質環境科学専攻 16	11	16	145.5
大気海洋圏環境科学専攻 16	13	17	130.8
国際広報メディア研究科	42	43	102.4
国際広報メディア専攻	42	43	102.4
情報科学研究科	126	125	99.2
複合情報学専攻	12	24	200.0
コンピュータサイエンス専攻	24	11	45.8
情報エレクトロニクス専攻	24	21	87.5
生命人間情報科学専攻	18	19	105.6
メディアネットワーク専攻	24	29	120.8
システム情報科学専攻	24	21	87.5

学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員	収容数	定員充足率
水産科学院	70	58	82.9
海洋生物資源科学専攻	34	31	91.2
海洋応用生命科学専攻	36	27	75.0
環境科学院	128	93	72.7
環境起学専攻	30	16	53.3
地球圏科学専攻	30	22	73.3
生物圏科学専攻	46	37	80.4
環境物質科学専攻	22	18	81.8
理学院	85	62	72.9
数学専攻	17	6	35.3
化学専攻	22	22	100.0
量子理学専攻	10	5	50.0
宇宙理学専攻	8	7	87.5
自然史科学専攻	20	16	80.0
生命理学専攻	8	6	75.0
農学院	50	45	90.0
共生基盤学専攻	16	12	75.0
生物資源科学専攻	14	13	92.9
応用生物学専攻	6	6	100.0
環境資源学専攻	14	14	100.0
生命科学学院	42	32	76.2
生命科学専攻	42	32	76.2
博士(博士後期)課程 計	2,345	2,340	99.8
[学科,専攻の廃止後も在籍する学生数 計]	-	[44]	-
法学研究科	300	262	87.3
法律実務専攻	300	262	87.3
経済学研究科	40	43	107.5
会計情報専攻	40	43	107.5
公共政策学教育部	60	70	116.7
公共政策学専攻	60	70	116.7
専門職学位課程 計	400	375	93.8
医療技術短期大学部	20	20	100.0
専攻科助産学特別専攻	20	20	100.0
看護学科(旧)	-	[2]	-
理学療法学科(旧)	-	[1]	-
作業療法学科(旧)	-	[6]	-
計	20	20	100.0
[学科,専攻の廃止後も在籍する学生数 計]	-	[9]	-

(注1) 16を付した研究科の専攻及び学部の学科は、平成16年度をもって募集を停止した専攻及び学科を、17を付した研究科の専攻及び学部の学科は、平成17年度をもって募集を停止した専攻及び学科を示す。

(注2) *を付した学部の各学科における収容定員及び収容数は、2～4年次を示す。

計画の実施状況等

1 収容定員と収容数に±15%を超える差がある主な理由

【学士課程】

学部の学科等	主な理由
文学部 ・人文科学科(+))	就職希望者及び大学院進学希望者による留年のため、また、海外留学による留年のため、収容数が超過した。
教育学部 ・教育学科(+))	公務員・教員採用試験等の受験希望者による留年のため、収容数が超過した。
法学部 ・法学課程(+))	司法試験・公務員試験等の受験希望者による留年のため、収容数が超過した。
理学部 ・数学科(+)) ・物理学科(+))	数学科は公務員・教員採用試験等の受験希望者による留年のため、また、物理学科は教育に支障のない範囲で編入学生を受け入れたため、収容数が超過した。
工学部 ・材料工学科 16(+)) ・システム工学科 16(+)) ・応用物理学科 16(+)) ・機械工学科 16(+))	留年者が多かったため、収容数が超過した。 なお、工学部は平成17年度の組織再編に伴い、左記学科の学生募集を中止した。
・3年次編入学(+))	入学形態の多様化を推進すべく、学部教育及び各学科での教育に支障のない範囲で、優秀な3年次編入学生を受け入れたため、収容数が超過した。
水産学部 ・水産海洋科学科 17(+)) ・海洋生産システム学科 17(+))	3年次進級時の全学教育科目未修得者による留年のため、収容数が超過した。なお、水産学部は平成18年度の組織再編に伴い、左記学科の学生募集を中止した。
・水産教員養成課程 17(-))	水産教員養成課程の学生定員については、各学科に均等になるよう学生を配属しているため、収容数が0人となった。 なお、水産学部は平成18年度の組織再編に伴い、左記課程の学生募集を中止しており、年次進行で解消する予定である。

【修士課程】

研究科の専攻等	主な理由
文学研究科 ・思想文化学専攻(+)) ・歴史地域文化学専攻(+))	研究領域の特性として、膨大な先行研究を踏まえるための時間を要することや社会人学生が論文執筆の時間確保が困難なことによる留年のため、収容数が超過した。
教育学研究科 ・教育学専攻(+))	過去数年、入学定員と入学者数はほぼ同数であるが、社会人特別選抜を実施して積極的に社会人を受け入れており、社会人の占める割合が高い(44.9%)ことが特徴である。社会人学生は職業に就いていること等から標準修業年限を超えて在学する傾向が強いため、収容数が超過した。
法学研究科 ・法学政治学専攻(+))	司法試験・公務員試験等の受験希望者による留年のため、収容数が超過した。
理学研究科 ・化学専攻 17(+)) ・生物科学専攻 17(+))	社会的ニーズに応えるとともに博士課程に優秀な人材を確保するために、教育に支障のない範囲で学生を入学させたため、収容数が超過した。なお、理学研究科は平成18年度の組織再編に伴い、左記専攻の学生募集を中止した。
医学研究科 ・医科学専攻(+))	修士課程と博士課程の一貫した教育により、医科学研究者・教育者となる人材の育成を目指し、将来博士課程への進学を

	奨励しており、教育に支障のない範囲で学生を入学させたため、収容定数が超過した。なお、社会的ニーズに応えるため、平成19年度から入学定員を150%に増員した。
薬学研究科 ・生体分子薬学専攻 17(+)) ・創薬化学専攻 17(+)) ・医療薬学専攻 17(+))	入学希望者の増加及び社会的ニーズに応えるために、教育に支障のない範囲で学生を入学させたため、収容数が超過した。なお、薬学研究科は平成18年度の組織再編に伴い、左記専攻の学生募集を中止した。
工学研究科 ・物質化学専攻(+)) ・機械宇宙工学専攻(+)) ・人間機械システムデザイン専攻(+)) ・エネルギー環境システム専攻(+)) ・量子理工学専攻(+)) ・北方圏環境政策工学専攻(+)) ・建築都市空間デザイン専攻(+)) ・空間性能システム専攻(+))	入学希望者の増加及び社会的ニーズに応えるために、教育に支障のない範囲で優秀な学生を入学させたため、収容数が超過した。
農学研究科 ・生物資源生産学専攻 17(+)) ・環境資源学専攻 17(+)) ・応用生命科学専攻 17(+))	入学希望者の増加及び社会的ニーズに応えるために、教育に支障のない範囲で学生を入学させたため、収容数が超過した。なお、農学研究科は平成18年度から組織再編に伴い、左記専攻の学生募集を中止した。
国際広報メディア研究科 ・国際広報メディア専攻(+))	社会人学生による長期履修学生の在籍により、収容数が超過した。
情報科学研究科 ・複合情報学専攻(+)) ・メディアネットワーク専攻(+))	入学希望者の増加及び社会的ニーズに応えるために、教育に支障のない範囲で優秀な学生を入学させたため、収容数が超過した。
・生命人間情報科学専攻(-))	定員を上回る志願者数を確保しているが、志願者の30%~40%を占める学外志願者の合格率が低いため、収容数が下回った。
水産科学院 ・海洋応用生命科学専攻(+))	社会的ニーズに応えるために、また、博士課程で優秀な人材を確保するために、教育に支障のない範囲で学生を入学させたため、収容数が超過した。
環境科学院 ・環境起学専攻(-))	本専攻は、平成17年度に設置し、ほとんどの入学生は2月末の入試で通常なら補欠募集の時期の入試で合格したため、入学者が少なかった。今年度もその影響により、収容数が下回った。
・環境物質科学専攻(+))	入学希望者が多数いたために、教育に支障のない範囲で優秀な学生を入学させたため、収容数が超過した。
理学院 ・量子理学専攻(+))	博士課程に優秀な人材を確保するために、教育に支障のない範囲で学生を入学させたため、収容数が超過した。
・宇宙理学専攻(-))	当初想定していた人数以上に合格辞退者がいたため、収容数が下回る結果となった。
農学院 ・応用生物科学専攻(+)) ・環境資源学専攻(+))	入学希望者の増加及び社会的ニーズに応えるため、教育に支障のない範囲で学生を入学させたため、収容数が超過した。なお、農学研究科は平成18年度から農学院に改組し、入学定員を増員した。

【博士課程】

研究科の専攻等	主な理由
文学研究科 ・思想文化学専攻(+)) ・歴史地域文化学専攻(+))	研究領域の特性として、広範な文献読解による知識の蓄積やフィールドワークによる資料の収集と分析に多大の時間を要すること、社会人学生は論文執筆の時間確保が難しいこと、

<ul style="list-style-type: none"> 言語文学専攻 (+) 人間システム科学専攻 (+) 	また、海外留学生の増加などによる留年者が多く、収容数が超過した。
教育学研究科 <ul style="list-style-type: none"> 教育学専攻 (+) 	過去数年、入学定員と入学者数はほぼ同数であるが、社会人特別選抜を実施して積極的に社会人を受け入れており、社会人の占める割合が高い(50.5%)ことが特徴である。社会人学生は職業に就いていること等から標準修業年限を超えて在学する傾向が強いため、収容数が超過した。
法学研究科 <ul style="list-style-type: none"> 法学政治学専攻 (+) 	社会人入学者及び外国人留学生の入学者が増加しており、これらの学生は論文完成に時間を要し留年者が増加したため、収容数が超過した。
経済学研究科 <ul style="list-style-type: none"> 現代経済経営専攻 (-) 	博士課程修了後の就職不安と就職状況の好転を背景に入学希望者(研究者志願者)が急速に減少している。また、研究者コースに入学した学生が途中で専修コースに転専攻している例もある。
<ul style="list-style-type: none"> 経営情報専攻 16 (-) 	税理士法改正による影響により入学者の主なルートである修士課程の学生が減少したことにより収容数が下回った。なお、経済学研究科は平成17年度の組織再編に伴い、左記専攻の学生募集を中止した。
<ul style="list-style-type: none"> 経済システム専攻 16 (+) 現代経済経営専攻 16 (+) 	海外留学や経済的事由などによる休学によって、学位論文執筆が遅れたことにより収容数が超過した。なお、経済学研究科は平成17年度の組織再編に伴い、左記専攻の学生募集を中止した。
理学研究科 <ul style="list-style-type: none"> 数学専攻 17 (-) 物理学専攻 17 (-) 化学専攻 17 (-) 	これらの分野における研究・開発職の需要不足及び学生の募集・指導を担う教員の定年、転出等による交代が多く、学生確保に時間不足があったため、収容数が下回った。なお、理学研究科は平成18年度の組織再編に伴い、左記専攻の学生募集を中止した。
<ul style="list-style-type: none"> 生物科学専攻 17 (+) 	標準修業年限を超えて在籍する学生が多いため、収容数が超過した。なお、理学研究科は平成18年度の組織再編に伴い、左記専攻の学生募集を中止した。
医学研究科 <ul style="list-style-type: none"> 生体機能学専攻 (-) 脳科学専攻 (-) 社会医学専攻 (-) 	基礎医学分野から構成される専攻のため、志願者が少なく収容数が下回った。なお、生体機能学専攻では修士・博士課程の一貫教育を行っており、数年後には収容数の増加が期待できる。
<ul style="list-style-type: none"> 病態制御学専攻 (+) 高次診断治療学専攻 (+) 癌医学専攻 (+) 	これらの専攻は臨床分野から構成され、地方医療を支えなければならないという北海道の特殊事情により、在学中も地域医療に貢献しているために、学位論文の提出が遅れるなど標準修業年限を超える学生がおり、収容数が超過した。
歯学研究科 <ul style="list-style-type: none"> 口腔医学専攻 (-) 	平成18年度から義務付けられた1年間の卒業臨床研修により、新卒の入学者が0名であったため、収容数が下回った。このような状況は制度の導入に伴う一過性の減少と受け止められるが、充足率の回復には標準修業年限の4年を要する。
薬学研究科 <ul style="list-style-type: none"> 創薬化学専攻 17 (+) 	近年、博士課程入学希望者は減少傾向にあり、毎年入学定員と同程度の者が入学していたが、この2年に限り入学希望者が多く、教育に支障のない範囲で学生を入学させたため、収容数が超過した。なお、薬学研究科は平成18年度の組織再編に伴い、左記専攻の学生募集を中止した。
<ul style="list-style-type: none"> 医療薬学専攻 17 (-) 	近年、博士課程入学希望者は減少傾向にあり、本学の教員に1名採用したため、収容数が下回った。なお、薬学研究科は平成18年度の組織再編に伴い、左記専攻の学生募集を中止した。
工学研究科 <ul style="list-style-type: none"> 応用物理学専攻 (-) 	多くの修士課程修了者が企業等に就職し、博士課程進学希望者が少ないこと及び博士課程修了者の就職状況が改善しない

<ul style="list-style-type: none"> 有機プロセス工学専攻 (-) 材料科学専攻 (-) 機械宇宙工学専攻 (-) エネルギー環境システム専攻 (-) 量子理工学専攻 (-) 環境フィールド工学専攻 (-) 物質工学専攻 16 (-) 分子化学専攻 16 (-) 量子理工学専攻 16 (-) 量子エネルギー工学専攻 16 (-) 機械科学専攻 16 (-) 	ことから、収容数が下回った。なお、工学研究科は平成17年度の組織再編に伴い、左記専攻のうち物質工学専攻 16、分子化学専攻 16、量子理工学専攻 16、量子エネルギー工学専攻 16、機械科学専攻の学生募集を中止した。
<ul style="list-style-type: none"> 北方圏環境政策工学専攻 (+) 建築都市空間デザイン専攻 (+) 都市環境工学専攻 16 (+) 	多くの成績優秀者が進学を希望したことから、収容数が超過した。なお、工学研究科は平成17年度の組織再編に伴い、左記専攻のうち都市環境工学専攻 16の学生募集を中止した。
農学研究科 <ul style="list-style-type: none"> 生物資源生産学専攻 17 (+) 	入学希望者の増加及び社会的ニーズに応えるために、教育に支障のない範囲で優秀な学生を入学させたため、収容数が超過した。なお、農学研究科は平成18年度の組織再編に伴い、左記専攻の学生募集を中止した。
獣医学研究科 <ul style="list-style-type: none"> 獣医学専攻 (-) 	経済状況の悪化により、博士課程進学希望者が減少したため、収容数が下回った。
水産科学研究科 <ul style="list-style-type: none"> 環境生物資源科学専攻 16 (+) 生命資源科学専攻 16 (+) 	修士課程の充足率が高くなったことに加え、博士課程修了者の社会的ニーズが伴わないことにより、標準修業年限を超えて在学する学生がいるため、収容数が超過した。なお、水産科学研究科は平成17年度の組織再編に伴い、左記専攻の学生募集を中止した。
地球環境科学研究科 <ul style="list-style-type: none"> 地圏環境科学専攻 16 (-) 	平成15年度修士課程修了学生が少なかったため、収容数が下回った。なお、地球環境科学研究科は平成17年度の組織再編に伴い、左記専攻の学生募集を中止した。
<ul style="list-style-type: none"> 生態環境科学専攻 16 (+) 物質環境科学専攻 16 (+) 大気海洋圏環境科学専攻 16 (+) 	博士課程修了に標準修業年限以上必要とする学生が多く、収容数が超過した。なお、地球環境科学研究科は平成17年度の組織再編に伴い、左記専攻の学生募集を中止した。
情報科学研究 <ul style="list-style-type: none"> 複合情報学専攻 (+) メディアネットワーク専攻 (+) 	入学希望者の増加及び社会的ニーズに応えるため、教育に支障のない範囲で優秀な学生を入学させたため、収容数が超過した。
<ul style="list-style-type: none"> コンピュータサイエンス専攻 (-) 	修士修了者に対する社会的ニーズが高く、また、就職活動時期が年々早まっていることもあり、博士課程への進学指導が十分機能せず、結果として、収容数が下回った。
水産科学院 <ul style="list-style-type: none"> 海洋応用生命科学専攻 (-) 	修士課程修了者の社会的ニーズが多く、終了時に就職する学生が多いことから、収容数が下回った。
環境科学院 <ul style="list-style-type: none"> 環境起学専攻 (-) 地球圏科学専攻 (-) 生物圏科学専攻 (-) 環境物質科学専攻 (-) 	環境起学専攻は、目的指向・分野統合という新しい概念に基づく専攻であり、専攻間の移動は可能であるものの、他研究科や他大学からの入学生を受け入れることとなったため、収容数が下回った。その他の専攻は、平成16年度、17年度の修士課程修了者が少なかったため、収容数が下回った。
理学院 <ul style="list-style-type: none"> 数学専攻 (-) 量子理学専攻 (-) 自然史科学専攻 (-) 生命理学専攻 (-) 	これらの分野における研究・開発職の需要不足のため、志願者が少なく、収容数が下回った。
農学院 <ul style="list-style-type: none"> 共生基盤学専攻 (-) 	共生基盤学専攻は、平成18年度に新設されたため、修士課程からの積み上げ進学者がいなかったことから、収容数が下回った。

生命科学院 ・生命科学専攻（-）	研究・開発職の需要不足，平成18年度新設のため修士課程の修了者がいないこと及び第一次入試の時期が遅かったことから，収容数が下回った。
---------------------	--------------------------------------------------------------------

【専門職学位課程】

研究科の専攻等	主な理由
公共政策学教育部 ・公共政策学専攻（+）	長期履修を選択する社会人学生が多いことから，収容数が超過した。

2 秋季入学の実施状況及び入学者数（平成18年10月）

修士課程	法学研究科	2名
	工学研究科	7名
	情報科学研究科	4名
	環境科学院	2名
	理学院	0名
	農学院	5名
博士課程	法学研究科	0名
	工学研究科	29名
	獣医学研究科	3名
	情報科学研究科	14名
	環境科学院	3名
	理学院	4名
	農学院	13名
	水産科学院	2名
生命科学院	3名	